

白と黒の灯台

陸の果ての灯台にすぎる思いを込めて
やってきた日は海の色も
黒く静まっていた
曇った空に見えにくくなる
消えている光源に
なくしたものを探すように
目を凝らすだけだった

雨も降らずに湿ったままの
薄暗い午後の中
いっそのまま耐えれぬほどの
どしゃぶりになってほしい

溢れてしまう こみ上げてしまう
抑えられないほど そう 何もかもが

白と黒の特徴のあるストライプの灯台を
今の心をうつしだす
気持ちで見つめていた
空に紛れてわからなくなる
白色に挟まれた
黒い部分が容赦なく
胸に押し寄せてくる

ずうっと前に訪れた日は
夏の青い陽射しに
きらめき揺れて
眩しいほどに白と黒が光ってた

戻ってこない あの頃のしあわせ
いたずらなほどに 思い起こさせる

崖の下には声も立てず低く飛ぶ海鳥が
打ち寄せてきたしぶきに混じり
やがて見えなくなってた

戻ってこない あの頃のしあわせ
いたずらなほどに 思い起こさせる

溢れてしまう こみ上げてしまう
抑えられないほど そう 何もかもが